

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：33908

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13468

研究課題名(和文) 日本語諸方言の記録・保存に向けた甌島里方言のテキスト・辞書の作成

研究課題名(英文) Making texts and dictionary of Koshikijima Sato dialect for activating the recording and preservation of Japanese dialects

研究代表者

平塚 雄亮(Hiratsuka, Yusuke)

中京大学・文学部・講師

研究者番号：70757822

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：例文・音声付きの甌島里方言の語彙約900語を収集した。この辞書は広く一般にも利用してもらえるよう、国立国語研究所の「危機言語データベース」(<http://kikigengo.ninjal.ac.jp/index.html>)において公開を行った。また、2年目には方言辞書研究会を2回開催し、本研究の研究計画にある「全国諸方言の方言辞書作成を活性化させる」という目的を達成すべく研究活動を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語諸方言が消滅の危機にあるなか、文法書、辞書、テキストの3点セットを揃えることが、方言研究の喫緊の課題の一つとなっている。現在、琉球語諸方言を中心にこの作業が急速に進められているものの、日本語(本土)諸方言においてはこれが非常に遅れている点が問題である。本研究では、日本語方言の一つ、甌島里方言の辞書およびテキストを作成し、これを国立国語研究所のウェブサイトにおいて公開する取り組みを行った。この方言の文法書は2015年に刊行されており、本研究により3点セットを揃えた。また、辞書・テキストを揃える取り組みを活性化させ、遅れてしまっている危機方言の記述・記録を活性化させる意義があった。

研究成果の概要(英文)：I collected about 900 words in the Koshishima Sato dialect with example sentences and audio. This dictionary has been uploaded to the Endangered Languages Database (<http://kikigengo.ninjal.ac.jp/index.html>) of the National Institute for Japanese Language so that it can be widely opened to the public. In the second year, the dialect dictionary study group was held twice, and the research plan of this study, which is to activate the making of Japanese various dialects, was conducted through this.

研究分野：日本語学

キーワード：甌島里方言 辞書 テキスト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

話者の少ない少数言語の記述および記録・保存は、言語学における世界的な急務の課題の一つである。現在、世界各地の研究者が文法書・テキスト・辞書のいわゆる 3 点セットをそろえることで、少しずつその課題に取り組んでいる。そのなかには出版物という形で文法記述すべてが公開されるものや、ウェブサイトでアーカイブ化し、テキストや辞書が広く一般に公開されているものもある（ロンドン大学 SOAS のウェブサイト (<https://elar.soas.ac.uk/>) など）。

日本国内では、2009 年のユネスコによる危機言語のリスト公表も手伝い、琉球語諸方言を中心に記述文法書の数が少しずつ増えてきている。数百ページにおよぶ重厚な記述とはいかないまでも、簡易的な文法書まで含めるとかなりの数になる。しかしながら、琉球語の記述がますます盛んになる一方で、日本語方言の体系的な記述はほとんど手がつけられていない状況が続き、琉球語方言研究者と日本語方言研究者の間には温度差が生まれてしまっているようにみえる。つまり、日本語方言研究の課題として、一つの方言の言語体系の全体像が明らかにされないままになっていること、また、基礎的かつ重要な資料であるテキストや辞書を十分に残そうという意識が欠けていることが挙げられる。

上記のような課題を残したままにしておくと、日本の方言研究は大きな壁にぶち当たってしまう可能性がある。まず、世界の多くの言語がそうであるように、日本語諸方言も消滅の危機にさらされていることが挙げられる。おそらくそう遠くないうちに多くの伝統方言が失われてしまい、そうなると調査を行うことも困難になり、ほしいデータが得られないということになってしまう。もしできる限り多くの地点で総合的な記述が進められていけば、その方言の話者がいなくなった後も、その記述を資料としてさらに研究を続けることはできる。また、もし総合的な記述が行われていけば、日本の方言研究は新たな展開を望むこともできる。しかしながら、やはりそのような発展的な研究を遂行するためには、一つの方言の体系的な記述、そして基礎的な資料であるテキスト、辞書なくしては成り立たない。

研究代表者はこれまで、鹿児島県の甕島里方言の記述文法書の作成に取り組んできた。里方言は話者人口の減少とともに伝統方言の衰退も進んでいるが、音韻論、形態論、統語論のどれをとっても特徴的な方言であり、記述を最優先すべき方言の一つである。この成果である『甕島里方言記述文法書』を編著者として 2015 年に刊行した。このように、琉球語方言と同様の取り組みが、ようやく日本語方言においても行われ始めてきたという段階にある。

2. 研究の目的

甕島里方言のテキストおよび辞書を作成し、里方言の総合的記述を完成させることである。2015 年に編著者として刊行した『甕島里方言記述文法書』は一つの日本語方言を初めて体系的に丸ごと記述した文法書であるが、いわゆる 3 点セットのうち、テキストと辞書がまだそろっていない。日本語方言研究では、テキストと辞書を残すという基礎的な資料作りの重要性がまだ定着していないが、本研究の完成により、今後他方言においても同様の取り組みが活性化することを旨とする。テキスト・辞書の具体的な内容は以下のとおりである。

- (1) テキスト：約 7 時間分の談話の音声保存およびテキスト化
- (2) 辞書：基礎語彙を中心に採取し、そのすべてに例文および音声を付した語彙集

3. 研究の方法

基礎語彙を中心に、研究者があらかじめ選定しておいた語彙を、フィールドワークを行うことで収集する。研究対象者は里方言話者 1 名であり、語形・例文、およびその音声をレコーダで収録する。これを 3 年間の研究期間で繰り返し行っていく。方言辞書のなかには、標準語と同形であれば採録されない、一つの語の複数の形（動詞の活用形）を載せすぎているなど、数々の問題を含んでいるものが多い。これは主に、方言辞書が話者自身の手によって編まれていることに起因すると考えられる。語形の発音や例文の作成は話者が行い、調査デザインや辞書の編集は方言研究の専門家が行うという役割分担をはっきりさせ、話者と方言研究者が共同で一つの方言辞書を作り上げていく。

4. 研究成果

2020 年 6 月、国立国語研究所のウェブサイト「危機言語データベース (<http://kikigengo.ninjal.ac.jp/index.html>)」において、約 900 語に例文と音声を付した基礎語彙を公開した。紙媒体の報告書では、ごくわずかの限られた研究者コミュニティでしか研究成果を共有することができないが、これを国立国語研究所のウェブサイトにおいて公開することにより、広く一般に対して成果の発信ができたと思う。また、ウェブサイトであるため、音声も容易に再生できるようになっている。なお、テキストについても同ウェブサイトにおいて今後公開予定である。

これと、2018 年度に 2 回開催した方言辞書研究会での議論により、これまで遅れてきた日本語方言の辞書・テキスト作成を活性化することが期待される。

また、本研究で行ってきた語彙収集に並行する形で、これまで記述のなかった項目の記述的研究も行った。具体的には、形容詞連用形に 2 つの形があることの記述、九州方言に広くみられるとりたて助詞 basi の記述を行った。これらの現象については、本課題で語彙収集やテキスト化を行いながら新たに気づき、記述に取り組んだものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 平塚雄亮	4. 巻 4
2. 論文標題 甌島里方言の形容詞連用形	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西日本国語国文学	6. 最初と最後の頁 74-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平塚雄亮	4. 巻 3
2. 論文標題 鹿児島県鹿児島市方言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国方言文法辞典資料集（4）活用体系	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平塚雄亮	4. 巻 16
2. 論文標題 甌島里方言のbasi	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪大社会言語学研究ノート	6. 最初と最後の頁 84-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.18910/73641	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hiratsuka, Yusuke and Harada, Soichiro
2. 発表標題 Adjective suffix variation in Kagoshima dialect
3. 学会等名 METHODS XVI（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 平塚雄亮	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 332
3. 書名 基礎日本語学	

1. 著者名 平塚雄亮	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 295
3. 書名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国立国語研究所「危機言語データベース (kikigengo.ninjal.ac.jp/index.html)」

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----